







COUNTRY RISK WEEKLY BULLETIN

17 February 2010



IN THE HEADLINES

 <p>インド</p> <p>インドは引き続き予想を上回る高成長を見せている。12月の工業生産は前年同期比16.8%増加し、6月は同8.3%だったことを考えれば、これはこの20年間でもっとも大きな成長だった。製造業は、個人耐久財、中間財、設備関連製品と全般に強く、これは経済の上向き基調が力強く維持可能なものであることの証左である。公式見通しは2009年度(4月-3月期)のGDP成長率を7-7.5%としている。しかし、農業のGDPへの貢献を減少させる弱いモンスーン雨季はインフレ圧力を増大させており、政策を金融引き締め方向に向かわせている。2009、2010年のGDP成長率は7-8%となることだろう。</p>	 <p>ギリシャ</p> <p>EUの指導者は、必要に応じて金融支援をすることを示唆したものの、詳細には立ち入っていない。それは2009年にGDP比12.7%ある財政赤字を、2010年には8.7%、2012年には3%とする施策を実施することが出来るか否かにかかっているからである。欧州委員会はギリシアに対し、2010年の方策の実施に際してのタイムテーブルの作成を3月16日まで、また、3%の達成のためのタイムテーブルを5月中旬までに策定するよう、猶予を与えた。EU指導者はユーロ圏を崩壊させない覚悟はあるようだが、ギリシア経済は2010年に今より更に1.7%縮小すると見込まれ、更に下振れすると思われる。というのは、財政を元の軌道に戻すのは、長く苦勞の多いものになると思われるためである。</p>
 <p>ベトナム</p> <p>ドン(VND)の為替レートは米ドルに対して3.4%切下げられ、この3ヶ月で2回目、2008年6月以来4回目の切下げは、内需が拡大するにつれて貿易収支面での圧力がかかっていることを示唆している。輸出、海外からの送金及び直接投資は強化されるだろうが、当局は雇用を支えることが出来るだけの内需拡大のペースと、対外収支の安定との間の適切なバランスについて悩み続けることだろう。これは、将来的に更なる為替レートの調整と、金利の引上げを示唆している。いずれにしても2010年には経済はその目標値近くの6-6.5%成長することが見込まれる。</p>	 <p>チェコ</p> <p>2009年第4四半期の実質GDPは、2四半期連続でプラス成長を遂げた後(第2四半期に0.2%、第3四半期に0.8%)、前四半期比0.6%縮小した(先行予測)。前年同期比のベースでは、第4四半期には3.9%縮小し、2009暦年には4.4%縮小した。第4四半期の詳細はまだ公表されていないが、統計局は工業生産の増大を、建設、小売及びビジネスサービスの縮小が上回った結果だとしている。2010年には1.5%程度の控えめな成長への回復が見られるだろう。主な下振れリスクとしては失業率の高さ(2009年末で9.2%)が個人消費の回復を鈍らせること、およびチェコの輸出産品に対するユーロ圏からの需要の弱さがあげられるだろう。</p>

ALSO IMPORTANT...

 <p>トルコ</p> <p>工業生産は2009年第4四半期に、連続5四半期で下落を続けた後に、前年同期比9%増加した。これはGDPが前年同期比で成長に転じた可能性を示している。経常収支赤字は67%縮小して2009年のGDP比2.3%程度と推測される。しかし、インフレ率は1月に前年同期比8.2%まで上昇し、2009年10月の5.1%に比べて高い水準になっているが、これは税金の引上げの影響も一部ある。このため、中央銀行は2009年11月までに累積で1.025bps引下げた金利を、2009年末の6.5%より不変としている。2010年には経済成長は財政及び恐らくは金融引き締めによって抑制され、2-3%になることが見込まれる。</p>	 <p>ナイジェリア</p> <p>議会はグッドラック・ジョナサン副大統領を、ウマル・ヤラドゥア大統領が健康問題で不在の間の大統領代行とすることを承認した。一方、ジョナサン氏の引上げに際しては憲法上問題がある点が指摘され、2011年初頭の選挙に先立ち更なる政治的な駆引きがあることだろう。指導者の正式な任命によって原油リッチなニジェール・デルタにいる反乱部隊に対する恩赦が強化されるかもしれない。国内原油生産量は同地域における犯罪や内戦によって時には40%程度減少している。地域的・民族的な分断と強い既得権益層が進歩を限定的なものにするだろう。</p>
---	---

COUNTRY REVIEW SUMMARIES

 <p>ケニア</p> <p>国民統一党(PNU)のムワイ・キバキ大統領とオレンジ民主運動(ODM)のライラ・オディンガ首相の連立政権は、引き続き権力闘争と、効果的なガバナンスを制限する両者の違いによって、もろいものとなっている。2008年初頭の暴動に戻る可能性も否定できない。経済は比較的角化されているが、輸出収入は一次産品頼りであり茶、園芸品とコーヒーが35%を占める一定期的な早魃がその水準を乱高下させている。2009年6月のUSD200百万ドルのIMFの外生ショックファンリティーはファイナンス・ギャップを埋めることには寄与したが、引き続きドナー支援は必要となる。平均年間GDP成長率は2004-07年には6%だったが2008年には2%を下回った。2009および2010年には1-3%程度の成長しか期待できないだろう。</p>	 <p>ルーマニア</p> <p>実質GDPは2009年第4四半期には前四半期比1.5%減少し(先行予測)、連続6四半期の減少と、経済は深刻な不景気に陥っている。前年同期比のベースでは第4四半期には6.6%縮小し、2009暦年には7.2%縮小した。インフレ率と対外流動性にかかる指標は次第に改善しているものの、とりわけ公的ファイナンスと高い債務負担にかかる新しいリスクが浮上している。ルーマニアは現在実施中のIMFおよびEU主導の貸出スケジュールは堅そうに見えるが、潜在的な政府の不安定性が将来的な貸出にとってはリスクとなるだろう。</p>
---	---

IN BRIEF

<p>エストニア</p>	<p>第4四半期の実質GDPは前年同期比9.4%縮小し(先行予測)、2009暦年の縮小は14%となった。</p>
---------------------	--

Edited by Andrew Atkinson

The content of the report (which is subject to change without notice) reflects only our opinion, which is based on information received by us. Accordingly no warranty, representation or other assurance is given as to the accuracy or completeness of the report. The report is for general information and is not intended to address any requirements you may have, for which you must obtain independent advice. The report does not constitute any form of advice, recommendation or arrangement by Euler Hermes UK plc or by the Euler Hermes Group of Companies and must not be relied upon in the making of any decision, agreement or arrangement. © Euler Hermes UK plc 2008.